

# Chiang Mai University



August 6- September 6



# 01

## Chiang Mai



### • 街並み

”北方のバラ”と呼ばれるチェンマイだけあってとても美しい街並みが広がっている。バンコクとは大きく異なった雰囲気である。街全体が山に囲まれ、旧市街は城壁が囲んでいる。お寺もたくさんあるのだが、煌びやかで自然と街中に溶け込んでいる。特におしゃれなカフェが多くあり、コーヒーだけで一日過ごすことができる。比較的カフェは高いのでいつも空いており快適に作業できる。マクドナルドですら高いので日本のような溜まり場ではなく、観光客用のおしゃれな快適空間のようになっている。チェンマイの街はこじんまりしているので空港も含め、スケートボードでほとんどの場所にいける。タイでスケボは好評なようで、犬に吠えられ、すごいスピードで追いかけられたり、盗撮されたりする。



## • ご飯

学食はかなり安い。バンコクの国立大学より規模が小さいが、チェンマイ大学では学部ごとにキャンティーンがあるので数は充実しており、外のローカルレストランよりも安く済ませることができる。タイのラーメンが100円、ご飯ものが75円ほど。

日本食を含め、海外の料理は高い。それでも日本の物価と比べると安く、700円で焼肉としゃぶしゃぶが食べれる。



## • ライフスタイル

自然が多くある影響なのか非常にのんびりとした時間が流れている。授業が8時から始まることもあり、早寝早起き、昼寝の規則正しい生活を送ることができている。

## • 外国人プライス

基本的に外国人はタイ人の倍以上の額を払わなければならない。お寺も外国人とわかると値段を要求されるし、ナイトサファリではタイ語で数字を書き外国人が多く払っていることを分からせないようにしていた。





# 02

## Chiang Mai University



### • 大学施設

広すぎてわかっていないのが現状。学内は電気のバスが公共の移動手段として走っており、新入生が主に使っている。ほとんどの学生はバイク通学。一つのバイクに3人乗っているのもよく見かける。スケートボードの方がバスよりもはやくつく事が多いのであまり使わないが、朝7時か夜10時まで、中にはエクスプレスも走っているため便利。



## • 学生寮



キャンパス内の寮は埋まっていたため、大学近くの寮に住んでいる。月 6,000 円でクーラーなし。部屋は十分に広く、知らない日本人とシェアしている。

## • 授業

最初希望していた授業が直前の変更や留学生に開講されていないという事で当初の予定と大きくことなりました。最初の履修登録期間はかなりばたばたした。授業も質が高く久しぶりにしっかりと勉強している。課題も多く大変だが、先生も熱を持って、犬が授業中に教室に入ってくるほどの授業をしてくれるので楽しい。スポーツの授業ではスイミングをとっているのだが、生徒2人に先生2人という贅沢なプライベートレッスンを受けている。



## • 留学生

今まで出会った留学生は中国、ミャンマー、日本、ドイツ、インドネシア、ブルネイの順に多かった。千葉大からの留学は自分をはじめで日本人は少ないと思っていたので驚いた。ドイツからの留学生歳とってるなと感じて話したらその人に自分が、一番年上だと思われていた自分の老け顔の可能性を大いに感じれた良い機会となった。



## ・日本人

ラインのグループに招待してもらい参加したら40人ほどいて日本人でのパーティーなどを結構企画してコミュニティを作り上げていた。せっかくタイにいるのにもったいないと感じたが4年間留学の正規の学生もいるので恋しくなるのかと思った。



## ・奨学金

成績なんて関係ない、自分が何を学んでそれを自分なりに吸収できて、繋いでいければいいと思って生きてきた。だがそれによって大きく後悔することになった自分はGPAが1.9しかなく奨学金に申し込むチャンスすらなかった。タイは物価が安いと言えども日本にいるよりお金を使っており、保険なども高額でかなり負担をかけている。特に祖母から多額の援助を受けているので申し訳ない。自分のやりたいことを自分自身でできない事をもどかしく感じる。定員割れしていて申し込みさえすれば、大した理由がなくても留学できたり、タイに関心がなく全休をたくさん作り何をするわけでもなく部屋にずっとこもっているような人たちです。さえGPAをとっていれば月7万貰えるというなんとも厳しい現実に直面している。





03

# Culture





## • 年齢

タイは日本よりも年功序列の文化が強いと感じる場面が多い。大学は全員制服を着るのだが、一年生はネクタイを締めなければいけなかったり、スカートたけなどの規則が厳しい。四年生ほどになるともはや制服すらきてない人もいる。社会人のタイ人はタイの文化で、両親に毎月お金をあげないといけなかったりと言っていた。旅行する時でさえ長女である彼女が家族全員分の旅費を出し、逆らう事はできないらしい。そのため、給料の良いマレーシアで働いていると言っていた。決して貧しい家庭ではないのにも関わらず、子供が家族のために倍以上働かなければならないのは衝撃だった。



## • トランスジェンダー

チェンマイ大学でも日本の大学のようにミスコンがあった。ミスコンを受賞するとミスコンのたすきとティアラのようなものをつけている。中には男性の見た目でミスチェンマイを受賞しており、かなり性の多様性が受け入れられているのを見た。日常生活でもそれを実感する事が多い。



## ・タイ最高峰の山



タイの友達のバイクの後ろに乗せてもらい片道6時間ほどかけてタイで最も高い場所に連れていってもらった。山を登るに連れて気温が下がり、雨も降って雲の中にいたので真冬のような気候だった。山頂には軍事施設と王の墓があった。あまり英語の表記や中国語の表記がなくあまり観光客は来ないように思えた。山に登る途中いくつかの村やレストランがあり、そこで食事をとった。山の中の影響か値段は街中より高い。民族の衣装をきた人たちも食事をとっており、ローカルに入れた気がしている。高いのはレストランだけではなく、市場もだった。道路沿いにお店を構えているためお土産屋さんとして商品を売っていた。それも店構えから想像できないほど高く空港で買うほどの値段だった。店はたくさんあったのだが、どの店も売っているものは同じ。その理由としてタイの友人は教育の不足をあげていた。山沿いは学校が少なく、教師も足りていない。また学校に行かないでそのまますぐ働くため一つの成功例に引っ張られて同じ商品を売っているという。確かにその地域に住んでいる人にとっては、学校なんて行かずにいづれつくはずの仕事（親の仕事）ですぐに働いた方が早く覚え、より多くのお金を得ることができる。下山の時によったお店では18才の子が自分の赤ちゃんを世話しながら働いていた。その光景を見た時にチェンマイ大学の同じ学部のインドネシアの村出身の友人が言っていた話を思い出した。今だに彼の村で生活している人たちは、一日村の人たち同士で賭け事をして時間を過ごし、することがないため、16歳ほどでも結婚することがそれほど珍しいことではないらしい。彼の妹は16歳で子供を授かり、18歳で離婚を経験したらしい。この生活の方が人間本来の生活のように見え、何が幸せなのかよくわからなくなる。



# Chiang Mai University

September 7 ~ August 6

GRAND CANYON







CMU Trekking



## CMU Trekking

- ・ 練習
- ・ 本番当日
- ・ 打ち上げ

## CMU Trekking とは

かつてブッタが訪れたと言われている  
神聖な山、Doi Suthep 頂上に向け、  
17 キロもの道のりを登り切るという  
新入生に対するの伝統行事。





## ・練習

交換留学生も CMUTrekking に参加できることが決まり、留学生が集められ 2 週間前から数回練習を行った。17 キロの道のりを登るのだから、走り込みを行うのかと思っていたが実際は違った。走る前の式典で行うパフォーマンスの練習ばかりを練習した。パフォーマンスの内容としては、小学校の紅組と白組に別れてそれぞれのチームの曲を歌うのに似ている。全員が列を組み、大声を出す。上級生の "how are how are how are we?" という掛け声に対し "we are we are social science(今の自分のメジャー)" と返答するような作業を数回行う。かなり練習は厳しく、軍隊の訓練をようだった。声をもっと出せ、肘を上げる、速く動けなど少し威圧的であった。少し嫌悪感を抱き練習に参加していたのだが、最終日にインターナショナルプログラムの学生もタイの正規学生たちの練習に参加させてもらいかなり驚いた。タイ正規学生のチームのほうがさらに激しい恐怖政治を敷いていた。タイ語で理解できなかったが、上級生は怒鳴り続け、同じパフォーマンスをやり続けた。ただその分サポートはしっかりしており、汗拭きシートや水、虫除けスプレーなど配布してくれた。練習はかなり長期におよび、中には足を怪我して続けられない人もいた。2 時間練習をしても終わる気配がなかったので自分たちはタイのバディと食事があるという理由をたてにして、その場を離れた。



## ・本番当日

伝統的な衣装に身を包み、チェンマイ大学の一員になったような心もちで参加した。無事、山に登る前の式典も終了し、お坊さんに神聖な水をかけられ、観光客とお祖母様たちの声援を浴びつつ出発した。道の道中には結構スポンサーがついていて、無料でエナジードリンク、お菓子、バックなどももらえた。自分のいる学部はほとんど歩きでカメラマンがいる時だけ全速力で走った。中には全ての道を走る学部もあり、この学部を選んでよかったと思う。それでも途中で倒れたり、歩けなくなった人もいたので過酷だったと思う。山を登った後は頂上でお参りをし学業成就を願った。かなりの距離を登りきった後の頂上からの眺めは素晴らしかった。 動画も質が高い。

<https://m.youtube.com/watch?v=shnCCHeAx-g&feature=youtu.be>





## • 打ち上げ



• 翌日には打ち上げがあった。6人ほどのグループを作って一つのちゃぶ台を囲み、チェンマイの郷土食を食べた。先日決まったキングとクイーンのお披露目会もあった。トランスジェンダー部門もあったのでつくづくタイはLBGTに対してかなりオープンだと思う。内容としては高校の文化祭のような感じでそれぞれが歌を歌ったり劇をしていた。ステージで観客の人がダンスするという機会があったので、ダンスをしたら映画の無料券をもらうことができた。



# Chiang Mai University







## • 授業面

授業はかなり質の高いものを選択することができたことを実感している。適当に授業の教室にやってきて思いつくままに90分話す授業とは違いきちんと構成を組立て効率的に授業を行い先生に凄まじいやる気があるので自分もやる気になる。今実際に起きている課題、時事的なものとのリンクさせているから自然と興味が湧いて楽しい。 Semester 終わりが近づいて来ていて個人、グループプレゼン、リサーチがあって大変だが、単位を取れるよう頑張りたい。



## • 宗教

京都的な立ち位置のチェンマイだけあって多くのお寺を見かける。お坊さんは街中に多くいて大学のシャトルバスも利用している。仏教だけでなく、イスラム教を感じる機会もあった。イスラム教大学からの短期留学に参加させてもらったからだ。ヒジャブをつけている人は非社交的でお堅いという固定観念を持っていたがそんなことは全くなかった。ヒジャブをつけないムスリムもいる中でなぜ着けているのか聞いたところ、ヒジャブをとっている写真を見せてくれ、趣味で着用していなかったが周りからなぜ着けないのかと言及され着け始めたという。ヒジャブ無しで写真を取ることは罪悪感を伴った喜びだと言っていた。お酒を飲んだり、豚肉を食べたり、同性の人を愛したり、人それぞれかもしれないが、宗教というものが掴みきれない。日本に帰ってからもう少し宗教について勉強したい。











### • 象キャンプ

獣医学部の二泊三日のエレファントキャンプに参加。留学生向けではないので自分一人が外国人で貴重な体験ができた。タイ人の友人に通訳をお願いしていたので内容はわかった。はじめの頃は疎外感を感じていたが、優しい人ばかりでありがたかった。メインの目的は象のための塩やミネラルを摂取できる場所を作ること。野生の象がいる山の中に入っていく、それをつくった。象のいる山で宿泊し、お風呂はないのでトイレの水でシャワーを浴び、外でテントを張り夜を過ごした。空気が澄んでいて夜の虫のささやきと星をととても素晴らしかった。

山の中では、鉄の鎖に足を引っ掛け、怪我をしてしまい破傷風のワクチンを打ったが、300円ほどしか掛からず、驚いた。象に対する知識、どのように保護されているか、象の栄養のための場所、ハーブを作ったりと日本ではできない経験とタイの雰囲気、を深く感じられた素晴らしい三日間であった。



### • チェンライでホームステイ

休日が重なったので友人の実家があるチェンライに行った。ほぼホームステイのような形になり快適な日々を過ごせた。チェンマイよりも観光地色は薄く、さらにゆったりとした時間が流れていた。青、白、黒の神社があり歴史的建造物というより現代的なアートと融合させていた。きらびやかであったり、壮大であったり、人寄せのためなのかわからないが、お寺自体は個人的にチェンマイのものの方が好きだと感じた。温泉にも行ったが、やはり裸にはならず、水着着用で温度もぬるま湯でプールのような感じであった。温泉卵があったのでそれはかなり嬉しかった。ナイトマーケットはチェンマイのものより大きく人でごった返していた。しかしほとんどが現地人で観光客はあまり見受けられなかった。日本語ティーシャツを売っているおばちゃんと仲良くなれこうゆう現地の人と話す機会はあまりなかったから嬉しかった。



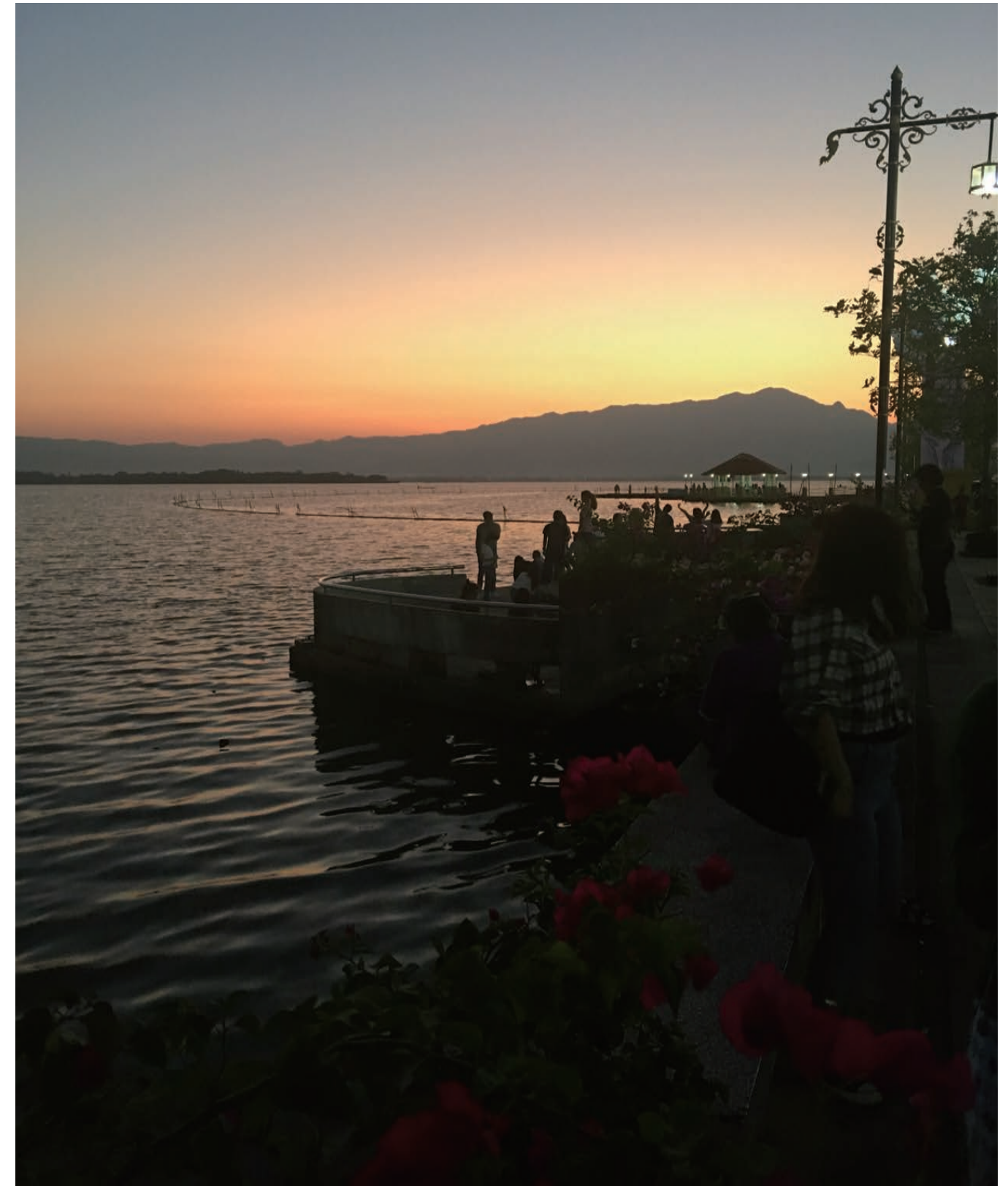






### • チェンライ、パヤオ旅

チェンマイ大学のインターナショナルクラブ主催。全て無料。ただチェンライの訪れた場所はほとんど前回訪れた場所で、この遠足はいつも一緒に過ごしている人たちで申し込んでその人たちと過ごしていたのであまり友達はできなかった。ミャンマーとの国境近くのホテルに宿泊して人生で初めて国境を見た。言語や人が混ざり、また違った雰囲気を作り出していた。物価はチェンマイよりもかなり安い。そこにある朝市に訪れたのだがかなり衝撃的だった。生の豚の体の全てがそのまま売られていたからだ。頭を切り落とし、お店の人がその皮膚を剥いていた。複数の皮膚を剥がされた豚の頭が見世物のように店頭にならべられていた。食べることの意味を強く考えさせられ、ビーガンである友人が言っていたことを思い出した。また、お坊さんに早朝ご飯を捧げるものにも参加した。







## ・ダンスイベント

自分の所属している学部である社会学部の音楽イベント。音響もしっかりしていて大規模なイベントであった。生のバンドが音楽をひいてかなり多くの人が踊っていた。チェンマイのこの時期の夜は肌寒いのだが、ステージ前で踊っていると倒れるかと思うくらい熱がこもっていた。音楽はいわゆるダンスミュージックではなく、普通のタイのポップなので踊り方はわからなかった。大人の方は振り付けを覚えてきているのか、グループを形成し同じ動きを同時に集団でしていた。

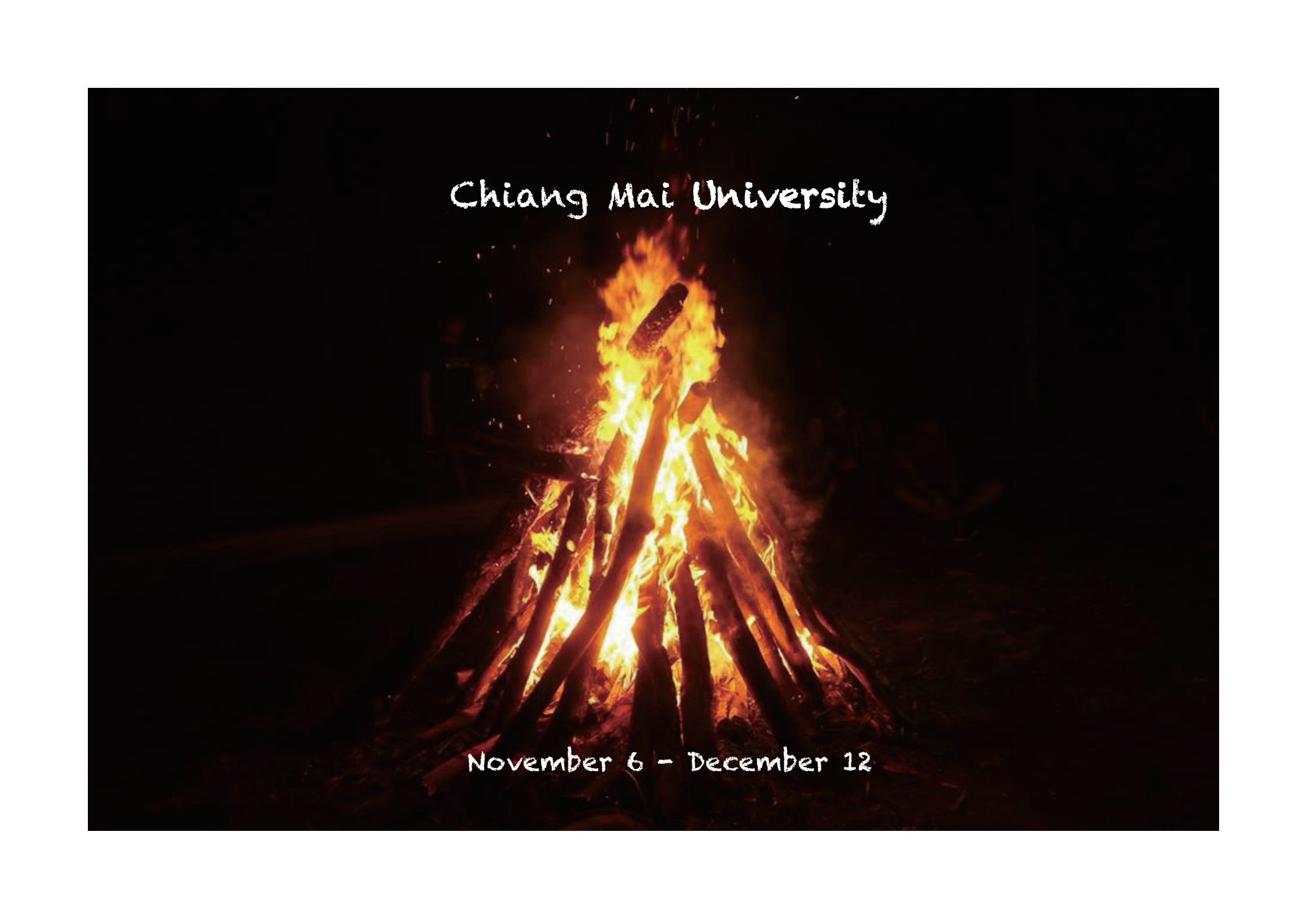




### • レディーボーイショー

学生のトランスジェンダーの人たちによるショー。何が性別なのか本当にわからなくなった。女性と言われたら疑わずに信じるような人がほとんどであった。いまでさえ LGBT であることが違法であったり、見せつけの処罰をされたりする場所がある中で、タイは本当に進んでいると思う。LGBT が受け入れられているだけでなく、しっかりと社会的に受け入れられて活躍する土台がある。ショー、ダンスの質はかなり高く、チケットを買ってよかった。



A photograph of a large bonfire made of logs, burning brightly at night. The fire is the central focus, with bright orange and yellow flames rising from the logs. The background is dark, making the fire stand out. Text is overlaid on the image in a white, handwritten-style font.

Chiang Mai University

November 6 - December 12





## • ロイクラトーン祭り

いつも留学生のお世話を見てくれる ICDI でロイクラトーンと呼ばれるバナナの木、葉、花、ろうそく、お線香で構成されたものを作った。タイでは11月あたりの満月の日に川の神様に対する謝罪をこうためにこれを流す。実際、最近では多くの人、観光客が行なっているので、この祭り後のゴミが問題となっている。川への謝罪をするのに、逆に川を汚染してしまっているのはなんとも皮肉である。

祭り当日の川の中に人が入っていて、次々の流れてくるこの小さな船からお賽銭としてのお金をかき集めている人も見つけずごく見たくないものを見てしまったが、そうすることをせざるを得ない状況にある人がいるということを実感した。



## • 最後の授業

最終テスト2週間前ほどになると、ほとんどの授業がテストのための準備ということで授業は無くなった。授業がなくなるのは嬉しかったが生活リズムを整えてくれた授業が無くなってしまったので生活習慣が崩れてしまった。ただこの期間は勉強に集中すると共にタイで残された時間を楽しむ良いチャンスを与えてくれた。スイミングのテストで10秒間浮いていることができなく、0点を得たのが今一番の後悔である。また授業においての研究成果を1つのペーパーにまとめるのはかなり大変であった。日本でもやったことのないようなことをいきなり段階も何も踏まずに、しかも違う言語でやり遂げられたのは、友達に色々迷惑かけてしまったけどかなりいい経験をしたと思う。この写真の真ん中に写っているのが、タイ語の先生で好きな先生のうちの一人である。コミュニケーションはうまくとれなかったが、いつも優しくお菓子をくれたのでとても今恋しく思う。





# Waterfall



# Chiang Mai University



## ・そこらへんの滝

授業も終わり、夜中まで起きてグリルポークを食べてから寝るという不健康極まりない生活を送っていたので朝早く起きてそこらへんの滝へ向かった。この滝は比較的簡単にいける滝だったが、後日には別の山に行った。いきあたりばったりで頂上を目指しその山を登ったが、頂上に行くことはできなかった。でも登り切って帰る道の途中に自然の滝を見つけた。そこには本当に誰もそこになくて気持ちのいい空間が広がっていた。タイのローカルに身を埋めることができたいい経験になったと思う。



Mark apple 

Chiang Mai University



### ・マークアップル

ついに馬が合わないルームメイトとの部屋を抜け、マークの寮に共に住んでいた。彼はチェンマイ大学から学内のホテルのような部屋を提供されておりとても快適な部屋であった。ここで毎晩夜ご飯を作ったり、ウノをしたり本当に家族のように日々を過ごした。この小さなスペースに5人いつも寝ていたのは驚きだし、多いときは8人ぐらいいた。騒ぎ過ぎて怒られちゃったけど、最後らへんは隣人はプログラムを終え空室になっていたため、本当に楽しい日々を送ることが出来た。



# Christmas Party 🎉

Chiang Mai University

## ・クリスマスパーティー

ずっとパーティーはメキシコでやったあの感じが一番楽しいと思っていたけど、今回のはとても楽しかった。もともと山に行ってキャンプする予定だったがお家を一泊二日で借りてパーティーをした。たくさん日本食を作ったり、ピザを食べたり、プレゼント交換したり、手紙交換したり、ビール飲んだり、テキーラ飲んだり、ダンスしたり、泣きまわったり。フェアウェルパーティーも兼ね備えていたし、みんなこれを楽しみに期末テストを乗り越えてきたのがあるから盛り上がったしかなり思い出に残るような日であった。





# Conclusion

# Chiang Mai University





## Conclusion

## Chiang Mai University

・約5ヶ月の留学を終えて思うことは、本当に運がよかったということである。運よく当初履修予定であった授業を選択出来なかったことから違う授業を選択し、その教授は今までにあった人の中で一番尊敬できる人であり、知識があり、頭がよく、授業を教えていることを誇りに思い、やる気に満ち溢れ、生徒のことを考えていた。運よくチェンマイ大学は留学生数が少ないので、システム的にはしっかりしてないものの、人的にサポートが手厚く、千葉大でいうイングリッシュハウスで単位の出ない、プレゼンテーションの授業などを取れたり、無料で映画をみれたり、ピザを食べたり、旅行に行くことさえもあった。日本人はいるものの希少ではあるので結構よくしてもらった。運よく前回の千葉大での派遣留学選考でマヒドン大学に行くことができず、仕方なくチェンマイ大学を半年で選んだことにより、今の同じく半年を選択した留学生と出会い仲良くなることが出来た。

今までの留学計画や毎月のレポートを見て遊んでいるだけだと思われるかもしれない。それは事実かもしれない。運よく奨学金をもらっていないのでそこまで罪悪感を感じないが。ただしっかりと授業は受けたし、単位を落とすことはなかった。英語で授業を受け単位をとったのはかなりの自信になった。今回の留学で学んだことは授業からはそうだが、人から学んだことの方がはるかに多い。本当に色々な人に出会った。タイ人はもちろん、インドネシア、ブルネイ、ミャンマー、中国、台湾、ドイツ、カザフスタン、茨城の人、イギリス、カンボジア、コロンビア。ストレート、ゲイ、バイ、トムボーイ、レズビアン、トランスジェンダー。イスラム教、仏教、キリスト教。ビーガン。車椅子に乗っている人、手足がうまく動かさない人。本当に一人一人が違うバックグラウンドを持っていてそれが考え方や行動ににじみ出ている。これまで人は違うのかと。色々な人と会うことで自分の固定観念は取り払われ、視野が広がった。それと同時に他人との比較により自分とは何かということ半強制的に考えさせられたので、自分の軸が少しわかった気がしている。

これほどまで自分の学校生活が充実するとは思わなかったし、それほどまでいるんない人たちと会えるとは思わなかったし、留学生グループのみんなと仲良く慣れると思わなかったし（その分別れがかなりつらかったが）、こんなに太るとは思わなかったし、ここまで人間的に成長できると思わなかった。これほどまでに密度の濃い時間がたった数キロ日本から離れた場所でたった5ヶ月くらい生活してただけで経験することが出来たから、残りの人生と行ったことのないたくさんの国のことを考えるととてもワクワクする。1つの大きな段階が終わったのでこれからも頑張っていきたい。